

(様式6-3)

研修等 報告書

令和4年5月 25日

三田市議会議長 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	
		議員名	檜田 充
参加者氏名	檜田 充		
講演会等研修名	全国地方議会サミット2022		
研修事項	・チーム議会に取り組む「自己決定・自己責任」の地方自治 外9講座		
日 時	令和4年5月12日(木曜日)～令和4年5月13日(金曜日)		
場 所	東京都新宿区戸塚町1-104 早稲田大学大隈記念講堂		

- ・資料写真については、美藤議員報告書参照
- ・完全オンラインで実施されました。(会場での紙ベース資料はなし)

(所見)議員の多様化は必要なのは言うまでもない。年齢や性別によるだけではなく、各々の生活・職場環境等による違いを乗り越えて、誰一人取り残さない社会を作り出すことがもとめられていると感じた。

4, 各地からオンライン登壇も！オンライン議会の展開事例

月刊ガバナンス 編集主幹 千葉 茂明

大津市と取手市の取り組みを紹介

大津市：オンライン議会の実現ロードマップ

取手市：デモテック（ICT技術を活用しての民主主義の創造）

(所見)議員が不安を感じないようなサポート体制の構築がまずは大切だと感じた。法体制の整備も必要になるが、改正に関しては全会一致であるべきであると考え。ただ、オンライン議会は緊急時への対応であるべきであると考え。

5, 多様な議員の一般質問を議会の政策形成へ

法政大学法学部教授 土山 希美枝

議会における一般質問を政策資源として政策形成への取り組みを紹介。一般質問を委員会の所管事務調査にしたり、議員同士の議論により磨くことにより政策に導こうとする。

(所見)おもしろい発想である。また、いくつかの市町で実現に向けて取り組まれている。政策自体が個人の発想から生まれるとするなら、あり得ることなのかと感じた。

6, コロナ2年の経験をどう活かしていくのか

法政大学総長 廣瀬 克哉

2年もの期間があったのに危機管理策が前進していないとすれば、将来においても危機管理ができるはずがない。

いまここにある危機を活かせ→今なら時間をかけていられる。

今こそ次の危機に備えたあらゆる準備をする「改革機会」である。

(所見)全くその通りだと思う。ハード面の整備はもちろん、法整備

についても、あらゆる危機を想定し整備できるか、各自治体の危機管理能力が問われることになると感じた。

7, 地方議会における男女共同参画の推進と実践

日本大学法学部准教授 林 紀行

議会における男女共同参画の必要性和取組の経過についての説明

豊島区議会議員 永野裕子、

宮城県柴田町議会 高橋議長、平松副議長 より、各々の取組と

現状についての報告

(所見) 議会に多様性が求められているのだから、各々の議員活動に対する障害を取り除くことは大切なことである。市民の付託に応えるためにも、全ての議員の持てる能力が遺憾なく発揮できる条件整備が大切である。

8, 速報！議会改革度調査ランキングとトレンド

早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 中村 健

設問構成：情報共有・住民参画・議会機能強化の3分野で

議会改革の取組が進んでも、地域課題の解決や住民からの評価に繋がっていない議会がある。で、「住民の意見を集めて調査し・議論し・決める」という議会本来のプロセスに照らし、設問の再構築をした。結果、議会が目指すべき「地域経営を実現しようとする議会」を評価する調査となった。ランキング詳細については問合せをとのことだが、議会改革が課題解決に結びつくようになることは望ましいことである。

9, Z世代にも届く！デジタルを活用した広報・広聴

株式会社 POTETO Media 代表 古井 康介

ZEXT 代表 小林 真子 ZEXT 副代表 吉永 一輝-----

Z世代とは1990年代半ばから2010年代生まれの世代で、この世代は新聞やテレビといった媒体から離れており、Webメデ